

2024/2/23 開催 いけんひろば

～安心して子どもを産み育てられるために、どんな社会になってほしいですか？～

いけんのまとめ 対面回

※<sup>しょうがくせい</sup>小学生が<sup>さんか</sup>参加した1<sup>はん</sup>班と3<sup>はん</sup>班の<sup>ぶんしょう</sup>文章には<sup>よ</sup>読み<sup>が</sup>仮名をつけています。

1<sup>はん</sup>班（<sup>しょうがくせい</sup>小学生2名、<sup>ちゅうがくせい</sup>中学生2名） ..... 2

<sup>あそ</sup>遊<sup>たいけんかつどう</sup>びや<sup>たいけん</sup>体験活動などについて

2<sup>はん</sup>班（<sup>ちゅうがくせい</sup>中学生2名、<sup>こうこうせい</sup>高校生世代3名） ..... 9

「<sup>こども</sup>子どもま<sup>なか</sup>まなかま<sup>ちづくり</sup>ちづくり」について

3<sup>はん</sup>班（<sup>しょうがくせい</sup>小学生2名、<sup>ちゅうがくせい</sup>中学生1名、<sup>こうこうせい</sup>高校生世代2名） ..... 14

<sup>ともばたら</sup>共働<sup>ともそだ</sup>き・共育てについて

4<sup>はん</sup>班（<sup>こうこうせい</sup>高校生世代2名、<sup>だいがくせい</sup>大学生・<sup>だいがくいんせい</sup>大学院生世代2名、<sup>しゃかいじん</sup>社会人世代1名） ..... 20

<sup>ちいき</sup>地域子<sup>しゆて</sup>育て支援、<sup>かてい</sup>家庭教育支援について

5<sup>はん</sup>班（<sup>こうこうせい</sup>高校生世代1名、<sup>だいがくせい</sup>大学生・<sup>だいがくいんせい</sup>大学院生世代3名、<sup>しゃかいじん</sup>社会人世代2名） ..... 25

<sup>こども</sup>子どもの<sup>ひん</sup>貧困<sup>たいさく</sup>対策について

6<sup>はん</sup>班（<sup>だいがくせい</sup>大学生・<sup>だいがくいんせい</sup>大学院生世代2名、<sup>しゃかいじん</sup>社会人世代2名） ..... 30

<sup>こども</sup>子育てや<sup>きょういく</sup>教育に関する<sup>けいざい</sup>経済的<sup>ふたん</sup>負担の<sup>けいげん</sup>軽減について

いけんひろば<sup>の</sup>後の<sup>アンケート</sup>アンケートで<sup>いただいた</sup>いただいた<sup>いけん</sup>意見 ..... 34

1班 (小学生2名、中学生2名)

テーマ：遊びや体験活動などについて

○普段どのような場所で遊んでいますか？

- 普段は学校の外で遊ぶが、クラブ活動の日以外は校庭や空き教室等で行われる放課後子供教室で遊んでいる。雨の日は体育館で遊ぶ。家で勉強を終わらせて、週に2～3日は遊んでいる。
- 普段は遊びに行く時間が無い。夏休みはおばあちゃんの家で遊ぶ。そこでは、ごはんをつくったり、山や海で働く人に話して食材をもらったりして、自分たちの力だけで過ごすプログラムに参加した。
- 庭にテントを張ることがある。
- 小学生の頃は毎日公園や友達の家遊びに行っていた。
- 友達の家にはなかなか遊びに行かない。1年前は行っていたが今はあまり行っておらず、友達を自分の家に呼んでいる。
- 最近あまり公園では遊ばない。
- 兄弟で遊ぶ。

○普段は1人で遊ぶことが多いですか？それとも人と遊ぶことが多いですか？

- 兄弟と遊ぶことが多い。
- 1人で遊ぶことが多い。
- 基本は1人で遊ぶ。

○「居場所」とは何だと思えますか？

- みんなが居る場所。
- 自分の好きなことが邪魔をされずにできる場所。
- 何をしても受け入れられる場所。
- 大人に見守られる場所。見守られると安心して遊べる。
- 学校の自分の席。
- 昼寝ができる場所。
- 家の布団の上。
- あまり親は居ない場所の方が良い。1人の方が良い。
- 学校の教室。仲が良い人や面白い人が居ると良い。

○「居場所」に大事な要素は何ですか？

- きょうだいで夜寝る時に、真っ暗で怖いという話をする時に「居場所」を感じる。
- 最近やりたいことが無く困っている。全部用意された場所ではなく何もせずにボーっとできる空間が欲しい。あまりごちゃごちゃ物を置いていない方が良い。
- 周りに沢山大きなぬいぐるみがあるところだと落ち着く。
- 本やおもちゃが置いてあると良い。

○どんな遊び場や居場所があったらいいと思いますか。

- 家の前に広い場所がある。そこで犬とかくれんぼしたりして遊びたい。
- のびのびとボール遊びが等できる広い場所が欲しい。
- 家から気軽に誰でも行ける場所が欲しい。家の近くの公園はボール遊びが禁止なので、ボール遊びができるようにしてほしい。
- 最近はずっとスマホばかり見ているので、思いっきり体を動かす遊びをしたい。

○普段していることとは違うことで、やってみたいことはありますか？

- 普段はジャングルドッジ、ブランコドッジ等、よく公園でドッジボールをしている。
- 外国の大統領の家に遊びに行ってみたい。
- ハリーポッターの世界に行ってみたい。特に、ハリーポッターのお城に行きたい。
- 鉄道が好きなので、いろんな鉄道に乗ってみたい。
- 猫カフェみたいな動物と触れ合える場所に行きたい。
- 動物を見るだけでなく、触れ合える場所が良い。

○普段遊ぶ場所にどんな遊具やスペース、イベントがあってもほしいと思いますか？

- 学校に行く時、自転車で通いたい。
- ロープウェイやエスカレーターが欲しい。
- 動物が居る場所が欲しい。

- なんでもこたえてくれる人が居ると良い。
- カードゲームの相手や話し相手になってくれるなど、相手をしてくれる人が欲しい。
- 同じ趣味を持っている人が集まる場所が欲しい。

○同じ趣味の人はどうやって見つけていますか？

- たまたま見つけた。

○「遊びにくい」と感じる場面はどんな場面ですか？

- 友達がいないうちや、友達は居るがその友達が他の子と遊んでいる時は遊びにくい。
- こどもが居る場所だと話しやすい。
- 先生が居ると遊びにくい。学校で鬼ごっこをやりたいが、先生が居るとやりにくい。
- 人がたくさん居る場所は遊びにくい。
- 自分は人がたくさん居る方が良い。
- 鬼ごっこは広い場所じゃないと盛り上がらないので、広い場所が良い。
- トランプの七並べであれば、広くスペースを使いたい。ババ抜きだと狭くても良い。

○こんな遊びをしたかったのに出来なかったことはありますか？

- 学校の中休みに遊ぼうとしたら、マラソン週間なのでマラソンをしなければならなかった。
- 学年が上がると、やらなければならないことが増えて遊べないことがある。

- 宿題を忘れたので、中休みに遊べなかった。
- ボール遊びをしたいが、友達も近くにいるわけではないのでできなかった。
- ドッジボールをやろうとした時、まだランドセルを片付けていないのにボールを取ろうとした人がいて遊べなかった。
- 初詣に行った時、神社にシーソーがあったので友達と遊んだらめっちゃ楽しかった。またシーソーをやろうと探したが無かったので、もう少し公園が欲しい。

○さまざまな体験活動がありますが、みなさんがやったことがある活動はありますか？

## 体験活動について



みなさんが、大人になって社会で生活していくために必要となる力を身に付けるためには、子どもの時から色々なことに挑戦、経験することが大事です。そのためには、私たち、みなさんの身近にいる大人が、みなさんの生活の中でさまざまなことを体験できる時間や場を作っていくことが必要だと考えています。

### ■体験活動ってなに…？

<p><b>自然体験</b> キャンプ、登山、カヌー、サイクリング、スキー、クラフト等</p>	<p><b>集回活動</b> 子ども会、委員会、係、クラブ等</p>	<p><b>地域行事</b> お祭り、スポーツ大会、音楽祭、交流イベント等</p>	<p><b>社会貢献</b> 清掃活動、募金活動、環境保全活動、地域おこし等</p>
<p><b>職業体験</b> 農林漁業体験、インターンシップ等</p>	<p><b>文化芸術体験</b> 音楽、絵画、演劇、書道、舞踊、茶道、華道等</p>	<p><b>科学体験</b> 科学実験・工作、ロボット制作、プログラミング等</p>	<p><b>国際交流体験</b> 国際交流事業、ホームステイ、イングリッシュキャンプ等</p>

- 自然体験の項目で、資料に書いてあるもののうちクラフト以外は全部やったことがある。
- 科学実験をしたことがある。登山もやったことがある。

- 以前、兄がブロックでロボットを作っていた。よくいっしょに色々なものを作っている。夏休みに絵や粘土で図鑑みたいなものを作ったことがある。
- プログラミングでロボットを動かす体験や清掃活動、募金活動、お祭りもしたことがある。
- 文化芸術は色々やったことがある。お母さんが「これやってみたら」と言うことがある。琴や日本舞踊をしたことがある。
- 昔ピアノを弾いたことがある。
- ヨガの先生が来て教えてもらった。
- コンサートに行った。
- 図工の授業でティッシュ箱を使ってギターを作った。
- 社会科見学で山に行き行って林業体験をした。めちゃくちゃ大変だった。
- 母やジャガイモを育てたことがある。

○やってみたい活動は何ですか？

- ホームステイをしてみたい。
- 海外に一度も行ったことが無いので、留学してみたい。
- ボーリングをやりたい。
- 電車の運転体験ができる施設に行きたい。
- 社会貢献の募金活動をやりたい。
- 募金だけでなく、実際に社会貢献活動の現場を見に行きたい。
- 能登半島地震で困っている人のサポートをしたい。

- ボランティア活動かつどうをしてみたい。
- 色々な魚かなを見たいので、モルディブいに行ってみたい。
- ベネチアの雰囲気ふんいきが好きなので、イタリアいに行ってみたい。
- ブリティッシュ発音はつおんを聞きたいので、イギリスいに行ってみたい。イギリスと日本にほんの生活せいかつの違いちがも知りしたい。
- 韓国かんこくの食べ物たを食べてたみたい。
- スポーツ大会たいかいでメダルとを取りとりたい。
- やりたくないこととして、今の総理大臣いま そくりだいじんにはなりたくない。
- 建物の掃除そうじをやってみやたい。色々いろいろなところがピカピカになると気持ちきもちが良よいし、物を整理せいりしたい。
- 親おやが忙いそがしいときに、小ちいさいこどものお世話せわをしたい。一いっしょ緒あそに遊あそんだり、ごはんを食たべさせたりしたい。
- 自分じぶんでどの授業じゅぎょうを受うけるか選えらべるようにしてほしい。
- まだやなったことが無いスポーツをやりたい。
- 魚型さかながたロボット等とう、何なにか作つくってみたい。

以上



2 班（中学生 2 名、高校生世代 3 名）

テーマ：「こどもまんなかまちづくり」について

○まちなかで遊ぶ時や登下校の際に、公園や水辺、通学路等で困ったこと・こうした方がいいと思うことはありますか。

<道路について>

- 私の住んでいる県は「信号機のない横断歩道で歩行者がいるときに車が止まるランキング」がワースト 1 位で、横断歩道で待っていても車が止まらずに走っていく。ウインカーを出さない車もある。自転車もスピードを出して走っていることが多い。自転車に乗っているときにヘルメットを付けていない人も多い。ただ、住んでいる市は人口が減っており、20 万人を割ろうとしているので交通量も昔に比べて減っている。山と海が近いので、道が坂になっていたりうねっていたりする。
- 家の周りになぜあるか分からない迂回路があり、そこで交通事故が起こったりする。横断歩道も信号がなくて見通しが悪いところがあるので、気を付ける必要がある。
- ベビーカーを押している人が小さな段差で苦労していることが多い。
- 住んでいるところは坂が多く道幅も狭いので、夜など習い事がある時に坂を自転車で坂を上がるのが結構大変。
- 朝日が信号機に差し込んでいるときには信号機の色が見えないことがあり、怖い思いをしたことがある。LED タイプの信号機であれば色は分かる。
- 道に街灯が少ない気がする。
- 私の学校では、近くの角に T 字路がある。見通しが悪くて車がいるかも分からないので怖い。特に電気自動車などは音がしないので近づいてきているのが分からない。
- 交通安全教室の開催回数を増やす必要があると思う。通学路があるエリアの住民に、通学の時間に外に出てもらい、登下校の見守りに協力してもらおうなどの工夫が必要かと思う。
- 私の学校では PTA が通学路の見回り挨拶運動をしている。
- 道にある標識の中には折れ曲がって読めないものもあるので、すぐに直したほうがいい。「割れ窓理論」という「窓が割れている住宅があると空き巣につながる」すなわち「小さな犯罪が大きな犯罪につながる」という理論がある。標識もすぐに直さないと、だんだんと大きな事故などにつながっていくと思う。
- 家の近くのガードレールが曲がっていて危ない。曲がってから 1 週間後くらいに補強のためのテープが貼られたが、それ以降そのままになっている。早く直した方が良くと思う。
- 自分はマンションに住んでいるが、マンションの駐車場から道に出るところが狭い。通学路ではスピードの出た車が飛び出てくることが多い。しっかり周りを見ないと気づけない。
- 家を出たらすぐに車が通る道路がある。カーブミラーもないので車に気づけない。
- 校門の左と右に道がある。まっすぐ延びている道のほうはカーブミラーがあるが見えづらい。マンションなどでは、車が出庫するときにブザーが鳴ると思うが、あのブザーを学校の周りに設置すると騒音になるので、他の対策を考える必要がありそう。
- ガードレールについて、自分の町には金網のフェンスがあるが、よくみるとこじあけられた穴がある。腕が挟まることもありうる。丈夫なフェンスにするなどの工夫が必要だと思う。

#### <駅について>

- 小さい子を連れていると、電車に乗るときが結構大変そう。特に電車やバスの利用時が大変そう。
- 電車の乗り降りの際、電車とホームの間隔が広いと感じる。私は小さいころ母親と歩いているときに電車とホームの間に足をはめてしまい、知らない男性が助けてくれた。当時は、後ろから人がどんどん来てしまったので母もお礼を言うことができなかったとのことだが、すごく助かったと聞いている。

#### <災害時について>

- 地域の子ども会議で、防災をテーマとして取り上げたことがある。災害時には道の状況も普段と違う中で、どのようにこどもの権利を守るのかが気になる。小さいこどもはがたがたしている道を歩けない。小さいこども一人でもお留守番している家は当たり前にあるため、どのようにお留守番している子たちを無事に避難させるのかが課題だと思う。大人が「急いで！」と言うだけでは逃げられないような年齢の子も避難しなければいけない。災害時に、道の避難順路の看板などが、こどもにも見えやすい位置にあるかなどのチェックが必要だと考える。災害時の避難計画を各家庭に任せてしてしまうと、忙しい家庭も多いので、家庭によっては災害時の対応ができないこともあるのではないか。学校でいかに通学路の避難経路を教えられるかも大切だと思う。
- 私の学校では災害時のマニュアルがある。校区の地図に避難所と避難経路を書き込み、災害時に持つべきものもリスト化している。

#### <遊びについて>

- 中高生は駅の周りの商業施設に行くことが多いと思う。遠いところに行くときは電車も使う。
- 徒歩で遊びに行くことが多い。
- 家には自家用車がなく、レンタカーを使っている。山間部は豪雪地帯なので、車があったほうがいい。
- 車で遊びに行くことが多い。
- 遊びに行くときは電車を使う。
- 駅の近くの商業施設に駐輪場があり、そこで傷害事件が起こった。しかしそれ以降、その場所を外からも見えやすくするようにするなどの対策はとられていない。
- 私の住んでいる市にはもともとデパートがあったが、10 数年前につぶれてしまい、空地になっていた。今はちょうど再開発をしているが、ちょっと道幅が狭かったり騒音がしたりする。産業が衰退しているので、人口をこれ以上減らさないためにも再開発は必要だと思う。
- 海沿いに、昔は遊園地で今はイベントスペースとして活用されている場所がある。今は自転車の運転しかできないような場所になっているので、もっと付加価値があれば楽しいと思う。

#### <水辺について>

- 私が住んでいる地域では川がある道の近くにガードレールがない。浅い川だが、高さがあるので落ちたら危ない。

- 私の住んでいる町には海があり、軍港を作るために一部が埋め立てられた。住んでいるところは海から1~2km 離れているが、液状化現象に見舞われやすい。
- ゴミのポイ捨てをする対策がとられていない水辺のエリアがある。地域の人が「ゴミを拾う人のことを考えてください」というポスターを貼りだしているが、状況は変わっていない。川には鳥も飛来しているが、ゴミが増えると鳥が減り、子どもたちが自然を観察する機会が減ってしまうのではないと思う。
- 私は小さい頃、靴をよく投げていた。小さい子は予想外のことをする。ガードレールがあれば川などに落ちないと思いきや、実際には子どもは体が小さいため、地面とガードレールの隙間から落ちてしまうことがある。その時、ガードレールがあるとかえって大人がすぐに助けられないこともある。ガードレールさえあれば良いのではなく、子どもが川に飛び込むなど、何かが起こったときに、大人がすぐに子どもを助けられる環境にしないと子どもの水難事故につながってしまうのではないだろうか。「まちづくり」というテーマに、ただものをつくるだけでなく、住んでいる人のことを考える思いやりがあると良いと思う。

#### <公園について>

- 「子どもが楽しめる公園」と「防災」は両立することが難しいのかもしれないと思った。遊べるし、防災にも役立つ場所があると一番良いと思う。
- 私の住んでいる市ではボール遊びが禁止の公園が多い。フェンスや使用ルールを作れば良いのでは、など色々意見はでている。その中の1つに「学校の校庭を放課後に開放してボール遊びをする場にして、他の公園ではボール遊びを禁止すれば良いのではないか」という意見があった。「子どものボール遊びが迷惑」と認識されていること自体が、子どもまんなか社会じゃないと思う。「子どものボール遊びは迷惑だから校庭に押し込めろ」という発想がされていることにすぐもやもやする。そんなに子どもと大人の生活空間を分ける必要があるのなら、大人向けには緑があるような公園をつくればいいと思う。一方、外で体を動かして遊びたい子どもは、遊具があるような公園に行けばいいのかもしれない。ただ、果たして世代間交流という意義がある公園を、そのように世代によって別々の場所としてつくるようなありかたで良いのだろうか。公園の差別化も必要だが、公園が世代間交流の場所にもなることも考えて「全ての人が使える公園」を作らないと「子どもまんなか」にはならないのではないかと考えた。
- 私の住む地域では旧小学校が廃校になり、体育館が遊び場として開放されている。地元にはボール遊びができる公園が1つしかない。
- 自分の住んでいる場所の周りの公園にシーソーがあったが、けが人がでたからか、撤去されてしまった。数週間前にシーソーがある公園を見つけて、「もうちょっと遊べる遊具を増やしてほしいな」と思った。
- 子どもにけがが起こりうるとなると、近くで大人が見ている必要がある。最近は遊具がなく、事務所もない公園と、遊具があり、事務所もある公園に2分化しているように見える。住宅地にある公園がボール遊び禁止であることは理解できるので、河川敷とかにもっと公園を増やしてもいいのかもしれない。
- 小さい公園を増やすことで、各公園に人が分散し、地域の交流も進むのでもいいと思う。
- 公園を増やすのもいいが、それで人が集まるとは限らない。私の周りの公園では、遊具は新しくなったが、子どもは以前と同じくほとんどいない。
- 公園に似た「プレーパーク」というものがある。私の住む市にもプレーパークがある。そのプレーパークで

はこどもは泥遊びや火遊びなど危険なこともやっていいが、責任は自分持ち、というルールになっている。近頃なぜ遊具やボール遊びができる公園が減っているかという、公園側が事故が起きたときの責任をとらなければいけないからだと思う。であれば、こどもがこどもらしくいられる場所を地域に増やすため、遊んでいる人が自分で責任をもち、時にけがをしながらでも色々なことを学んで良いんだよ、という整理にすればいいのではないか。公園も必要だが、プレーパーク的なものもどんどん増やしていかないと、結局こどもが外で遊ばなくなり、室内でゲームをするようになってしまう気がする。

- 自分の地元の大きい公園に、お金を入れたら動く遊具があった。今、その公園では遊具が撤去され、期間限定でカフェとして運営されている。
- トイレが汚い公園は、親にとってもこどもを連れて行きづらいのではないかと思う。
- 家の周りの公園は、ハトの糞で汚れており、遊びに来るこどもの数も減ってきた。公園をきれいにすれば、遊びに来るこどもも増えるのではないだろうか。
- 小さいときに怖かったものの1つにお化けがあった。小さい子は自分の「嫌だ」という気持ちを言葉にできずに泣いてしまうことがある。私も昔は暗い道を通ると何か負の感情が生じて泣いてしまっていたが、実はそれは「お化けが怖い」という気持ちを言語化できてなかっただけだったと気づいた。こどもにとっては、街灯の有無や人通りの多さ、町の綺麗さなども、「お化けが出そうか」という判断に影響する。今私たちがいるような明るくて新しいビルで「お化けがでる」と思うこどもは少ないが、汚い高架下や落書きがある暗い場所などでは「ゾンビがでる」などと思うこどももいるだろう。町の綺麗さによって、こどもの心理的な生きやすさは変わると思う。
- 以前住んでいた町には坂が多く、坂を下りたところに公園があった。その公園は普段は人も少ないが、祭りが開催されるときは明るいし安心できる空間になっていた。賑わいがある空間のほうがこどもは遊びやすいと思う。高架下は落書きがあるところも多い。アートがあると綺麗にはなるけれど、暗さは変わらないから、街灯も付けたほうが良いと思う。
- 私の家のすぐ近くに、本当はボール遊びをしてはいけないが、実際にはこどもがボールで遊んでいる場所がある。これは「ルールがルールでなくなっている場所」だと思う。
- 大きな公園はボール遊びができる場であってほしい。小さな公園でもボール遊びができると良い。
- 公園や水辺、道路などこどもが何気なく使う環境に結構生きにくさがあると感じている。環境を改善するために、変革を担う地方自治体にも伝えたいと思った。意見の伝え方としても、こうやって東京に集まるというだけじゃなくて、思いついた時に伝えられるような手段が必要なのかなと思った。地域の見守りも大切だと思う。市民性や地域性を高めていくことが、雰囲気としてこどもが生きやすい社会にするためには必要だと思った。

#### <商店街について>

- 昔は栄えていたが、今はシャッター通りになっている商店街がある。「領域性を高める」ことや「照度を上げる」ことは大事だと思う。

<電柱について>

- 傘をさして電柱の横を通る時、まちがって傘を、電柱を支えるワイヤーに引っ掛けたことがある。駅の周りは電線が地下に埋められ始めているが、山の周りはまだ電線の地中化がされていない。
- 新しくできた住宅街の周りは、道路も整備されており電柱もない。
- 液状化しやすい場所を中心に、電線の地中化を進められたら良いと思う。

<いけんひろばで取り扱うテーマについて>

- こんなことを言うとその回の存在意義がなくなってしまうかもしれないが、私は今日参加して色々な人の意見を聴いて、失礼だけど「なんでもかんでもこどもまんなかだと言ってこどもに聞けばいいわけじゃないんだな」と思った。今出ている意見は、こどもの立場からという名目で言っているが、こどもじゃなくても感じることだし、具体的で細かすぎて、国土交通省やこども家庭庁にお伝えしても動きようがない。実際にガードレールが壊れている話をされても、どこのガードレールが壊れているか分からないから直しようがない。私たちが言った意見で何が変わるのか、分かりにくいテーマだなと思う。例えば生徒会の子を、こどもの意見を聴くために強制的に政策反映に参加させることなどは、生徒会の子にとっては迷惑になる。今日のテーマのような道路のことは、こどもに聞くテーマとして難しいのではないかと感じている。今日は、本来子育て世代に聞くべきことを私たちに聞かれているような気がしてもやもやする。

以上

3班 (小学生2名、中学生1名、高校生世代2名)

テーマ：共働き・子育てについて

○あなたの親は子育てしやすそうですか。大変そうですか。



- 自分の親は子育てしやすそう。最近では長期休暇のときに旅行に連れて行ってくれた。親は有休をちゃんと取れているので、ブラックな職場ではなく、子育てしやすそうだと思う。ただ長期旅行に行った後に家族が病気になったときは、長期休暇の影響でお休みが取りにくくて大変そうと思った。インフルエンザになったとき、5日間は自宅療養しないといけないが、親は子どもと一緒にいてあげた方がいいので、子どもがインフルエンザになったら親も休めるような制度があつたらいい。自分が病気の時も他の部屋に人がいるだけで安心できた。自分が親になった時もそういう制度があると助かると思う。
- 自分の親は子育てが大変そう。共働きで、祖父母とも一緒に住んでいるが一方は寝たきりで介護をしないとけない。たまに休むこともあるが、有休も限られているのでたくさん休むこともできない。育児休業のように、介護のための休暇も取れたら、介護も子育てもしやすくなると思う。
- 昔は大変そうではなかったが、今はきょうだいが多い事をしていて送迎が大変そう。きょうだいが多い事が多かったときは帰日も遅くなるのだが、そんなときも夕飯を作らないといけないので大変そう。
- 自分の家は子育てしやすそうと思う。母が専業主婦をしており、自分ときょうだいの年が離れている

で、負担が少なそう。お母さんがしんどそうだなと思ったことはない。家事全部を母がしているのではなく、父も家事をしてきているので母の負担は少なそう。私が大人になったときも家族と家事の分担ができればいいと思う。男性も子育てに積極的になれるように、こどもの看病のやり方を伝え、例えば、こどもがおう吐したときの対応ができるように知ってもらう方がいい。母親がそういう対応をすることが多いと思うが、母親がいないときでも父親が対応できるよう、学びの機会があったらいい。

- 子育ては大変そうだなと思う。習い事や学費などの費用面で、現在の物価高や賃金が上がらないという影響で苦労している。習い事への費用補助は難しいと思うが、何割かは支援できるといい。習い事よりも学費の支援をしてほしい。男性の育児休業は公務員や大企業では取りやすいかもしれないが、中小企業ではまだ取りにくい状況があると思う。そういう状況が変わり、育児休業が取りやすくなれば子育てもしやすくなる。各家庭によって取りたい休暇日数は違うと思うので、家庭の都合にあわせて、柔軟に必要な休暇が取れるようにできるといい。

- 国が認可していない学校に通っており、認可されている学校より学費が高い。認可外でも学費を安くしてほしい。通学定期券も買うことができないので、通学定期券が買えるようになれば少し負担が減るので助かる。

- 私立学校に通っているが、公立学校に比べて費用がかかっている。奨学金のような貸付制度があるので、そのような学校に通いやすくなるための費用軽減の制度が広がるといい。教育について別の話だが、自分が住んでいる自治体の公立学校では自治体が購入した重くて動作が遅いタブレット端末が配られた。壊れたときは自治体が無償で修理してくれるので、みんなが大事に扱わないらしい。

各家庭で教育に必要なものは物を渡すのではなく、費用の支援をするようにした方がいい。自治体からの教育の支援がもっとあれば教育の幅が広がって、勉強の効率も上昇するのではないか。その方が自分の物も大事にしてくれると思う。

- 保育所や幼稚園に入る時に基準があって、入ることができないこどもがいて、待機児童になっている。

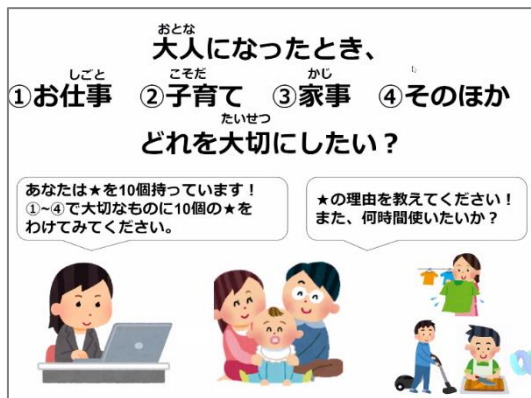
入るための基準を緩くしたり、保育所を増やしたりしたら、子育てがしやすくなると思う。

- 中学校が遠くて通学に時間がかかる。隣の自治体の私立学校は家の近くにバスが通っていて楽に

通える。楽に通学できるようなサポートや手段があると、親の子育てが楽になると思う。公共交通

機関でも通えなくはないが、本数が少ないし、天候によっては通学しにくいときもある。

○大人になったとき、仕事、子育て、家事、そのほか、の中でどれを大切にしたいですか。10 ポイントを持っていたら、そのポイントをどう振り分けますか。



- 仕事 4、子育て 3、家事 1、そのほか 2。仕事をしてお金を稼ぎたい。将来自分がなりたい職業に

なれたと仮定して、自分のやりたいことをたくさんやりたいという気持ちもあるから。子育ては自分のこと

もという時間は大切だと思うからポイントを入れた。家事は、あまり料理が得意ではないので、重要



視していない。将来の夫に任せたい。そのほかとして、息抜きも必要だと思う。子育てについては、共働きだったら保育所を利用したいが、親からもサポートがほしい。

- 仕事 5、子育て 0、家事 2、そのほか 3。仕事が大きいのはお金が欲しいから。老後までに 2,000

万円を貯めたい。誰かの子どもを幸せにしたい気持ちはあるが、自分が子どもを欲しいという気持ちはない。税金も高いし、少子高齢化といっているのにそんなに対策もされていないと感じるので、そんな

に私は子どもをつくりたくないなあという意思がある。家はきれいな方がいいので、家事はやる。あとは

音楽が好きなので、副業で音楽関連のことができたかと思っている。子どもを育てたくないわけではなく、

子どもを育てる環境が国としてしっかりしていないから、そんな環境で子どもを産んでも自分は子育てし

ていく自信がない。外国で少子高齢化が問題になっていて、国が色々支援した結果、少子高齢化

が改善した事例があった。国が対策をしっかりとって、環境が整った中でなら子育てしたいと思う。まず

は子育てをする土台をつかってほしい。お金は必要不可欠だと思うので、子どもが産まれたときに支援

金がもらえる、何人産んだら追加でお金の支援がある、といった制度があるといい。また、子どもが

学校に通う中で、いじめなどのトラブルがあったときに教員が見て見ぬふりをするとか、教員によるわい

せつ事案があるとか、子育てをするにはそういうことがなくなってほしい。今は勉強して、いい大学に行

きたい。韓国では大学に入るための塾の塾があると聞いた。学歴は大事だと思うので勉強をしていき

たい。

- 仕事 4、子育て 0、家事 2、そのほか 4。結婚願望がなく、子育てにも興味が無い。やりたい仕事

はある。家事は、料理が好きなのでやりたい。そのほかについては、仕事や家事以外にも趣味でやり

たいことがある。仕事をしながら休みをとれる環境が大事だと思う。

- 仕事 5、子育て 2、家事 2、そのほか 1。仕事はしない限りお金をもらえないし、仕事自体は好きだと思つので優先してやりたい。こどもは欲しいので、仕事しながら子育てにも関わつていけたらと思う。家事も分担してやっていきたい。趣味は特にないので、少し休憩することができたらいい。育児休業やワークライフバランスがもっと企業に広まっていきたい。大企業ではそうした取組が進んでいるところも多いと思うが、中小企業だと仕組みが整っていないところも多いと思うので、その点が課題。
- 仕事 3、子育て 1、家事 2、そのほか 4。子育てについては、こどもを学校に通わせたり、こどものことで色々とお金がかかったりと大変な面がありそう。こどもがいるのは幸せだと思うけれど、将来は自分の好きなことを大切にしたい。子育てについては、こどもが病気になったときは仕事をどうしたらいいだろうか、習い事のときは移動手段をどうしようか、と思う。子育てをするときは、男性にも家庭科を習つてもらつて、家事を手伝ってもらえるようにしたい。
- 男性が化粧水をつけたり、ワックスをつけたりと男性として身なりを整えるための授業があると取り上げていてるニュースを見た。そうした授業のように、男性も学校で子育てについて学べたらいい。授業中に料理などを調理実習で学ぶとか、子育てはどんなものかとか、女性には月経があるということも勉強し方がいい。小学校の保健の授業で男女別に授業を受けることがあるが、男女一緒に受けた方がいいと思う。異性の身体の仕組みがどうなっているか知ること大事。子育てをするときに色々な知識を持っている方が、関わりやすくなると思う。子育てについては、18歳で成人になることを考えるとか高校で学ぶのがマスト。異性の身体については小学校で2～3回学び、中学・高校でも学ぶ

機会を増やしていく方がいい。

- 異性の身体のことは男女ともに学んだ方がいいと思う。男性が仕事、女性が子育てという意識は今もあるのが事実なので、その意識をなくしていった方がいい。高校の保健の授業では男女が一緒に性教育を学ぶ機会はあるが、授業は多くない。もっと性教育を深く学んでいくのは大切だと思う。
- 子育て世帯への給付金は、所得税額がいくら世帯までという制限があるものもある。制度によっては所得税額が世帯主だけの額で計算されることがあるが、世帯主が制限額を下回っていても、世帯合計にすると制限額以上まで稼いでいる世帯もある。世帯合計としては同じ収入だったとしても、世帯主だけの所得税額を見て、給付金がもらえたりもらえなかったりする世帯があるのは不公平。そういう不公平なことがあると、子育てしにくいなと思ってしまう。大学の無償化も進められているが、大体子ども何人目以降なら、という制限がある。まずは子ども1人目から支援を始めて、1人目への支援で「これだけ子どもが増えるなら今後の支援はこうしよう」という方針で検討した方がみんな子育てしたいと思うだろうし、子育てをしやすくなると思う。

以上

4班（高校生世代2名、大学生・大学院生世代2名、社会人世代1名）

テーマ：地域子育て支援、家庭教育支援について

○子育てに対して、どんな支援があると良いと思いますか。

- 子どもが生まれた後の支援に加え、子どもを産みたいと思えるような環境づくりが大事だと思う。子どもを産むことが出来ないというより、子育て支援が足りておらず出産する環境が整っていないことが合計特殊出生率の低下に繋がっている。地域社会が、子どもを産めて子育てがしやすい環境を作り出すことが必要だと思う。
- 都会に住んでいると近所の人と触れ合う機会がないため、子どものことで相談できる相手がいない。母から聞いた話によると子育てについては区役所で相談できるとのことだが、区役所までの距離が遠かったり待ち時間が長かったりする。相談窓口が少なすぎると思う。
- 区役所が行きづらい場所にあるのは、国や自治体が民間の仕事を邪魔できないということが理由の一つだと思う。高齢者や低所得者向けの公営住宅もみんなが行きやすい場所ではなく、利便性が悪いところにある。民間が相談に乗るようにすれば利便性のいいところに相談場所を設置できる。
- 自分が中学生の頃、親が未就学児を持つ保護者のために子どもたちを預かるというイベントを開き、子育ての相談にも乗っていた。市外からも参加者も来ており需要があったので、民間からのサポートは必要だということだと思う。
- 小学生のときの社会科の授業で、子育ての悩みを聞きに来てくれる民生委員・児童委員が取り上げられていた。民生委員・児童委員が、子どものいる先生の家を訪ねて、子育てに関して悩みが無いか聞くという内容で、民生委員・児童委員に相談ができるということを知った。自分が住んでいる地域では、民生委員・児童委員という肩書きを欲しいがために活動をしている人もいる。子育て支援をしている方たちには、なぜ活動をしているかという目的意識をしっかりと取り組んでもらいたい。
- この前も子どもが遺棄された事件があったが、誰かに相談ができてお金にも困らない、というような安心して子どもが産める環境が必要だと思う。
- そもそも子どもを産むための時間が足りないと思う。
- 子育てにかかる時間が足りないという保護者もいると思う。以前、きちんと教育がされていない子どもを教育実習で目の当たりにした。共働きで働かないと食べていけないことも理解できるが、産んだからにはちゃんと育ててほしいし、子どもへの教育を学校に任せてばかりなのはどうかと思う。
- 教職関連の職業に就いているが、子どものことをよく見ているという割に正しく子どもと向き合っていない保護者の方が多く、家庭の中での教育力が低下していると思う。しつけができていない家庭が多い。
- 箸の持ち方や挨拶などのしつけは、学校や地域の高齢者がするものではない。教育実習に行ってみて、昔ほど挨拶の重要性が教えられていないことに驚いた。学校の教育に地域の人を巻き込めば、周囲に住んでいる人のことを知れて頼れるようになると思う。
- 10年前と比べ不審者という言葉をよく聞くようになり、よく知らない人に挨拶をしてはいけないという風潮が強まってしまっている。
- 子どもを持つ親が地域の大人を信用していないし、地域の大人は子どもたちを迷惑だと思っている。
- 学校は民主主義が通らない社会であると言われていたが、地域と学校の連携が取れていないように

思う。総合の授業時間などに、地域の人と連携することで色々な活動ができるようになって聞くと、いざ現場に出てやろうと思ったらできない。地域の人をより大切に、学校も親も地域との繋がりを持てたいと思う。

- 自分が小学生の頃は授業で地域のおじいちゃん・おばあちゃんを 50 人ほど呼び、体育館で昔の遊びを教えてもらったり、一緒にパフォーマンスして仲良くなったりするという機会があった。今でもその人との交流が続いている。現在その授業はなくなってしまっている。
- 当時の研修会で、地域の方と交流したという事例が紹介されその年だけ交流がブームになるが次の年になるとなくなってしまうのはよく聞く話である。
- 私立の高校に通っており、学校に行くまでの道に人がいたら会釈をするくらいで挨拶をほとんどしない。こどもと地域との繋がりがないと、地域の方の学校に対する不満が溜まりクレームが入ることがあるので、他の地域から通う生徒が多く在籍する私立の学校と地域の繋がりも大事だと思う。

○皆さんの両親はいつ仕事から自宅に帰ってきますか。

- 両親が自営業をしており、労働基準法が適用外だと思う。
- 母は外に働きに出ていて遅い時は 22 時くらいまで働いている。父は在宅勤務をしており、自由な時間に働いている。遅い時には夜中の 3 時くらいまで仕事をしていることもある。
- 自分は 21 時や 22 時まで働いていて、帰宅するのに 1 時間ほどかかる。プライベートな時間がほとんど持てない。プライベートな時間を作るためには夜更かしするしかない。
- 共働きをすることが一般的になったということが、子育てをする環境としては明らかに良くない。出生率が低くなり、子育てすることが負担になる。子育てが負担になるからそもそもこどもを産まないという選択に繋がる。

○地域との繋がりを作るためにはどうすべきだと思いますか。

- 学校の長期休み中に授業の一環で近所の教会で無料で食べものを配るフードパントリーに参加し、地域の人と触れ合う機会があった。フードパントリーやこども食堂などの活動に関する情報は得にくい。例えば、各地域のスポーツチームと連携をとり、フードパントリーやこども食堂の周知をすれば、ボランティアの人が増えて地域の人も参加しやすくなると思う
- 前までは町内会のお祭りがあると地域の高齢者もこどもも参加し、お祭りの後に一緒に食事をしてしつけをしてもらうという機会があったと思う。親だけではなく地域の人にしつけをもらうことがあったが、現在はお祭りも減ってきている。
- 町内会での地域の人との関わりについて、地域おこし協力隊のような町外からやってくる人を積極的に受け入れるムードがあればいいと思う。新型コロナウイルスの蔓延や高齢化の影響で町内会の活動をやらなくなったが、お金を出してでも祭りなどを復活させ、子育てに協力してくれる人たちを受け入れられる雰囲気作りをすれば、地域が子育て世帯を支えていくことが出来ると思う。
- 地域力を高めると、子育てしやすい環境づくりや出生率の増加、こどもの健全な成長に繋がると思う。
- お金を使って外部の人を地域の活動に参加させると、地元の人々の抵抗感が生まれると思う。行政は

1 年間ほど誰かに事業を委託することが多いので、閉鎖的な地域の人の意識を変えるまでには至らない。行政は表面的な部分だけを見て実際は何も変わっていないことを把握できていない。

- 地域を発展させるためにイベントを開催しようとする「こどもの声がうるさい」などの苦情も出て、長年その地域に住んできた人たちに受け入れられないこともある。

○地域との繋がりを作るための活動について、地域住民に受け入れてもらうにはどうすればいいと思いますか。

- こどもたちが育った後、地元から離れないようにするのが大切だと思う。教育は長い目で見なければならぬが、どこかで途切れている。住みづらという理由で生まれ育った場所から出ていってしまう。自分が住んでいる自治体では月に約 2,000 人が移住してしまう。一つの場所に留まると地域への愛着が湧いてきて地元のために活動しようと思えるが、移住してきた人たちは郷土愛を持っておらず、地域をよくするために精力的な活動をしてくれないと思う。昔は町内会が運営しているこども会があり、集団での登下校の際に地域の人たちに挨拶をしていた。最近はお金がかかってしまうこども会に入会しないこどもが多く、集団登校もせず地域の人との関わりを持たずに育っている。
- 複数の市町村が合併された町に住んでおり、住んでいる地域に町内会はあるがこども会がない。以前はこども会主導で行っていたお祭りが、こども会の入会者数が少なくてできなくなった際に、隣の地域にこども会を合併しようと持ちかけたところ、拒否された。地域住民に受け入れてもらう施策について、言葉で言うのは簡単だが、実際に町のレベルに落とすのは難しいと感じた。
- 自分が住んでいる地域のこども会では旅行やスキーに行ったり、お祭りを開催して山車の引き手をこどもたちが担当したりした。
- 町内会館に月一で集団登校をしている班があり、班のメンバーで集まってビンゴ大会などをしていた。
- こども会には、小学 1 年生から中学 3 年生の幅広い年代のこどもがいる。こども同士で縦の繋がりを作るのはなかなか難しいが、あると安心できる。こどもの先輩の親との繋がりがあれば、先輩のお母さんたちから洋服を貰ったり先生についての情報も入ったりする。会費がかからない組織があればいいと思う。親もこどもも周囲との繋がりができるし、こどもを育てやすい環境につながると思う。
- 住んでいる地域に入会費無料の団体があるが、いつでも活動しているのが情報が回ってこないのどっきりと周知してほしい。

○国や自治体が行っている支援について、どのような情報発信の仕方が良いと思いますか。

- SNS での発信やポスティングがいい。
- SNS だとアカウントを見つけるまでが大変だと思う。区のホームページ には URL が貼ってあるだけでクリックしてもどこに繋がるか一目見て判断ができない。
- 支援を受けるためには情報を受け取る必要があるし、情報が伝わってこない支援が行われていないのと同じだと思う。
- 気になる支援の情報が一覧にまとめてあると分かりやすいと思う。
- 住んでいる地域は毎月広報誌を 1、2 回発行しており、こども向けの歯科検診や高齢者向けの定

期健診、市内のサークル活動、移動情報や土日の病院の営業などについての情報が載っている。興味がある人にとっては情報にアクセスできるのでいいと思う。情報を知らないと興味の持ちようがないのでまず知らせるとい側面では効果的だと思う。

- 必ず届けるべき情報と、届いたら参加につながる情報とがある。イベントの開催情報や何もしなくても自動的に適用される支援についての情報は届いても届かなくても問題ないと思うが、自分で申し込む必要がある支援についての情報は、必ず対象者へ届くように周知するべきだと思う。
- 情報発信の方法が SNS 頼りになってしまうのは避けるべきだと思う。公的機関が行う情報発信で使われている媒体で民間企業が運営しているものは災害時などに使えなくなる恐れがある。自治体が直接的に運用するアプリがあればいい。
- こども家庭庁の X の発信内容はリポストが多く、過去に行われたぼんぱーの活動やいけんひろばについての情報が流れてくる。こども家庭庁として本当に伝えたい重要なことが国民に届いていないと思う。
- 各自治体が運用するアプリがあるのはいいと思うが、高齢者が多い町だとアプリを使える方が少ない場合がある。紙媒体での発信も情報が届きづらいし、防災無線も実際に誰が対応するのかなどの問題がある。効率的に幅広い年齢層に情報を伝えられる方法があると良いなと思った。
- 二次元バーコードがあれば読み取りたくなる。小さいこども向けの支援に関する情報なら、駅のエレベーター付近に張るといい。二次元バーコードの読み取りが難しい人向けには、情報は文字で書いたものを貼るなど、支援の対象者が行きそうな場所や使いやすい媒体で情報を用意しておくのがいい。
- 使用している家計簿管理アプリに、家族構成や経済状況などの情報を入力すると、住んでいる自治体の支援制度を共有してくれる機能がある。一次情報にあたる自治体のホームページから情報を探すのも大切だが、情報がまとまっており、簡単に見つけられると楽だと思う。
- ある程度年を取った人はテレビしか見ない印象があるので、政府広報の CM を流せば情報が伝わるかもしれない。ただ、地方局がない地域もあるため、自治体ごとの情報を発信するには適していない。
- 親世代でも YouTube を見る人がいる。広告を流す地域をある程度絞りこめば、特定の地域に住む人たちに認知させることはできる。
- Netflix は若い世代から子育て世代まで見ている。
- TVer もいいと思う。
- 小中高生が対象者の支援制度でも、実際に申し込みをする親世代が情報を得ないと支援に繋がらない。学校で奨学金に関するプリントが配られたら、まず親に渡す。

○その他にどのような情報が欲しいですか。

- 悩みを抱えるこどもが SOS を出せる場所や困った時の連絡先を認知していることが大事だと思う。
- 困った時のための相談先が書いてあるカードを学校から配られるが、よく見ずに捨ててしまう。

○学校から提供される困った時の相談先についてどう思いますか。

- どんな感じか実際にはわからない。
- 先生に相談すればいいと思ってしまう。

- 顔が見えると相談しづらい。本当につらいときは秘匿性が高い方が安心できる。リアクションを取られることすらストレスに感じてしまうと思う。
- SOS を出せる相手が親しかいないのはおかしいと思う。
- 学校で相談窓口が書いてある資料が配布されても、わざわざ電話するほどのことなのかと考えてしまう。「困ったら電話をかけてね」と書いてあるが、どの程度困ったらかけていいのかわからない。
- 相談窓口では、過去にいじめや虐待に悩んで困っていた経験がある人から、当時困ったことについて意見をもらうのが一番良いと思う。しかし、実現させるのは難しいと思う。困った状況を経験したことがない人たちが話しあい、制度を決めて子どもを守った気になっている、という状態は避けるべきである。
- いじめられていた友達が相談窓口で電話をかけたが、電話をしたのは一度きりだった。結局解決せず転校した。
- 情報を得ることが出来ないくらい困っている人は、人に相談できないし、支援制度も知らないと思う。
- 「悩みがあれば何かしらの手段で声を上げてほしい」ということは周知したい。毒親の子どもだったら、チャットや電話で相談したいけど親に許可を取る必要がある。けれど「そんなことは相談しなくていい」「全部自分が正しい」と言われてしまうと思う。どんなことでも相談してほしいと思うが、実際は相談できない環境にいる子どももいる。
- 相談窓口で電話をして解決の方向に導くためには、どうしても学校と連携しなくてはいけないが、学校と連携するとうまくいかないと思う。相談窓口で電話をして解決したという成功事例・実績が掲載されていれば、相談してみようという気持ちになるかもしれない。
- 人に相談をすることは労力がかかるので、相談しなくても周りから声をかけてほしい。学校の先生は様子を察して声をかけてくれるかもしれないが、親世代は自分から相談しないと何もしてくれない。
- 地域の人との連携があれば年齢関係なく色々な人に声をかけてもらえる。地域の人に協力してもらえないなら行政に対応してもらう必要がある。

#### ○その他意見（子ども家庭庁の X について）

- 子ども家庭庁が運用する X のアカウントは叩かれているところをよく見かけるが、指摘されている内容が 1 次情報ではなく、周りが勝手な想像で騒いでいるだけだと思う。
- 子ども家庭庁はよく叩かれているけど、ぼんぱーとして関わる中で、「実際にそうではない」と反論したいことがたくさんある。かわいそうだなと思って見ている。
- ヤングケアラー向けにキャンプをするというツイートも炎上している。

以上



5班（高校生世代1名、大学生・大学院生世代3名、社会人世代2名）

テーマ：こどもの貧困対策について

○「貧困」とはどのようなイメージですか。

- ごはんを食べたいが食べられない、外で遊びたいが遊べない、学校に行きたいが行けない等、何かをしたいができない状態だと思う。
- 貧困は珍しくはないが、必ずしも見えない。
- 親も子どもも貧困に直面した時、解決したいが解決方法が分からない状態だと思う。
- 大人も子どもも関係なく、お腹が空いて食べられないというイメージ。
- 貧困は自己責任で片付けられがちだが、重要な問題なのにも関わらず全然解決していないイメージ。
- 衣・食・住の3要素が完璧でないのが貧困だと思う。

○日本に住んでいるこどもの場合、どういう状況だと「貧困」の状態にあると考えますか。

- 日本は割と豊かな国で目に見える貧困はなかなか無い。貧困に陥ることに対して経験不足だと思う。旅行、趣味、習い事、塾等はお金がかかる。ヤングケアラーも問題になっている。時間やお金を趣味などの経験を積むことに使えないのが、日本の貧困の特徴の1つだと思う。
- お金によって自由が制限されているのが日本の貧困の特徴だと思う。何をすることもお金がかかる。例えば、毎日同じ服を着ていること等が貧困のイメージ。
- 中学校までは義務教育で通うことができたとしても、高校・大学・専門学校等に進学できない状況や進学するために自分でアルバイトをしなければいけない状況等、勉強したいができない状況が貧困だと思う。
- こどもが親や学校に支配されていて、こども自身が貧困であることに気づかない。こどもが自分の周囲を見ながら、自分が置かれている状況が貧困である/貧困ではないという判断をすることができていないのではないか。
- 親世代から見ると、都市部と地方の収入格差はものすごくあると感じる。こどもだけというよりも親とセットでの貧困だと思う。
- こどもの貧困には虐待や不登校等、他の問題も関わってくる。
- 貧困には複雑な背景があると思う。こども虐待等の事件が起きる前に周知が気づくことができれば良いが、こどもにとっては「これが当たり前」と感じていて周囲に助けを求める方法も分からないのだと思う。

○「貧困」はどうして見えづらくなっていると思いますか。

- 虐待の相談窓口の案内を受け取ったことがあるが、相談方法がLINEや電話だった。貧困に陥っている人はスマートフォンを持っておらずLINEができないこともあるし、すぐに電話をできる環境がない。貧困を見える化する手段が取れない。
- 貧困に至るまでに何かしらのヒストリーがあると思う。人との信頼感が形成できずに貧困になってしまうのではないか。
- 貧困に陥っている家庭は孤立しがちだと思う。頼る人もいない、そもそも窮状を訴える手段が無い、

相談の仕方も分からない。自分たちが置かれている環境を問題だと思っていない人たちもいると思う。これらの理由があって日本の貧困が見えづらいのではないか。

○皆さんの中で「貧困のライン」はありますか。どんな状態であれば貧困だと思いますか。

- 衣・食・住で「とりあえず」という状態が貧困に関連していると思う。とりあえず住むところはあるが安全ではなかったり、とりあえず食べるものはあるが安いファストフードや菓子パンしかない状況等、質が圧倒的に悪い場合や何とか繋いでいるという状況は貧困ではないか。菓子パン1つ食べるという状況でも、「毎日これしか食べるものがない」という状況と「今日は菓子パンを食べたいから食べる」という状況は別だと思う。
- 選択肢が人よりも著しく少ない状況が貧困だと思う。例えば、大学進学の際にもお金があれば国公立と私立のどちらでも選ぶことができるが、お金がなければ国公立しか選べないか、そもそも大学に進学できないかもしれない。また、お金があればマンションや家を買って、家具も揃えて住みやすい環境をつくれるが、お金がないと市営住宅しか選べない等、居住環境が制限されてしまう。
- 貧困の場合、将来の夢を選べないのではないか。将来の夢のための教育を受けられなかったり、そもそも将来の展望を想像しづらかったりする。世の中の職業をよく知らないこともあるのではないか。
- 「余裕があるかどうか」という点も貧困のラインを考える上で大事な要素なのかもしれない。生きていくためのお金を稼ぐだけで精一杯で余裕がない状態は貧困だと思う。その人にとって切羽詰まった課題がある状態が「余裕がない状態」と言えるのではないか。
- 現在一人暮らしをしており、大学の費用も全部自分で出している。高校生になってアルバイトをしていたが、大学に入学するためには勉強しなくてはならないし、働いてお金も貯めなければならない状況になった。勉強やアルバイトをして、気がついたら夜や朝だったというように余裕のない日々だった。
- 友人の誘いを断らざるを得ない状況も貧困を表している。そのような状況になると、学校で浮いてしまうこともある。
- 時間やお金の余裕が無くなると、友人の誘いを断らざるを得ない状況になる点に共感する。

○「貧困」状態を解決するために、どのような助けがあると良いと思いますか。

- 数年前に「医大生に家で余っている食べ物を分けてあげよう」という趣旨のイベントがあった。医大生は忙しすぎてバイトができず苦しい状況にあることが背景だったようだ。日本はフードロスが多く、そのうちの多くが家庭から出ているということだったので、それを活用した仕組みがあると食の面で貧困を解決できると思う。
- 皆さん現金の給付を一番やってほしいと思う。生活保護等、色々な支援を受ける際の手続きがとても煩雑で基準も厳しい。簡略化された手続きや素早い給付で継続的に面倒を見てくれると自立しやすくなるし、子どもや親の社会進出も促進される。お金の使い方が苦手な人は多いと思うので、お金の使い方を提案してくれる専門家がいて良い。
- 高校受験のために塾に通う人は多いと思うが、費用が馬鹿にならない。自分が中学生の時、中学校の先生が受験対策を放課後にやってくれて、とても助かった。「塾に行ったから良い学校に行った」

ではなく、勉強や教育に皆が平等にアクセスできると良い。

- 自分は高校受験や大学受験にあたって、塾に通わずに民間の自習室で勉強していた。受験に向けた奨学金等の支援もあるが、塾の費用は本当に馬鹿にならない。ひとり親家庭や保護世帯のこどもに授業料の支援をしている自治体もあると聞いたので、国全体でやってほしい。
- NPO で相談員をやっているが、病院に行けないこどもや若者が一定数いる。年齢が低ければ医療費がかからない場合もあるが、受診するには保険証が必要なため、「何らかの理由で親が保険証を渡してくれない」「病院に行ったことを知られたくないから病院に行けない」という相談がある。保険証が無くても、無料で受診できる制度があると良い。
- 色々な年代のこどもが相談できる人が必要。周囲の人が虐待・困りごとに気づけないという話があったが、国や自治体の仕組みによって互いに見守りあうことができれば良い。あらゆるライフステージで相談できるネットワークや人があると良い。家族のように距離が近い人であれば相談しやすい。
- 以前 SNS でこども家庭等がトレンドにあがっていた。扶養控除の縮小を撤回してほしいという意見を聞く。金銭的に楽になる仕組みはあった方が助かると思う。
- 進学時に使える経済的支援の制度はあったが給付先が親の口座であるため、親が別の使い方をしてしまうと結局こどもへの支援にはつながらない。制度があっても情報が回ってこなければ使えない。貧困状態にある人は情報収集も難しいので、制度ができれば学校の配布物等で知らせると良い。
- 情報はインターネットで配信してほしい。マイナンバーであればマイナポータルからこどもに直接配信してほしい。小中高生だと紙資料やチラシでの配布が多いと思うが、配布物が多いためほとんど見ない。対象となる家庭に 1 対 1 で直接リーチできるような仕組みの方が良い。ただデジタルデバイドの話もあるのでどう情報を届けるかは難しい問題だと思う。
- 今は学校で 1 人 1 台タブレットが配布されていると聞く。そのタブレットを活用して奨学金情報をまとめたアプリ等で情報発信できると良い。国が関与するとある程度安全性は担保できると思う。
- 学校での情報発信は、全校集会で案内すると効果があるかもしれない。全校集会の時に案内して「興味がある人は〇〇先生まで」というようなイメージで周知すると良い。
- 教員との三者面談でお金について学校側から話してほしい。成績の話ばかりでなくお金の話もできれば支援につなげやすいし、お金の情報は重要だという意識付けになると思う。

○「子ども食堂」のイメージを教えてください。

## 子ども食堂ってなに？



「子ども食堂」とは、子どもが一人でも行ける無料または低額の食堂です。「地域食堂」「みんな食堂」という名称のところもあります。子ども食堂は民間発の自主的・自発的な取り組みです。子ども食堂の数は増加の一途をたどっており、現在その数は全国で約9,000箇所以上にのぼっています。

※公立小学校：約19,000校、公立中学校：約9,000校

出典：子ども食堂について－むすびえ (musubie.org)

子ども食堂は、生活に困窮する子育て世帯への支援だけでなく、虐待の防止のための見守りや、地域の交流、子どもへの多様な経験の提供など様々な役割を担っており、国としてもこの取組を応援しています。

22

- 資料の写真をみると楽しそう。子どもたちが話しながら食事をしており、ネガティブなイメージよりは周りとのつながりを保てるネットワークのような場になっていると思う。
- 子ども食堂の活動は様々な目的で行われているが、活動数が増えてきている。多くの人にとっては「子ども支援の食堂」というイメージなのではないか。貧困に対する自己責任論もあることを踏まえると、貧困状態にある人でも、すぐには子ども食堂へ行きづらいかもかもしれない。実際は色々な家庭の子どもが遊びに来ているが、実態を知らないとイメージがつかないと思う。
- 自分がスタッフとして関わっている子ども食堂では「共生食堂」を目指している。子どもだけでなく親や地域住民も来てくれて地域ともつながることができる。スタッフの中には民生委員もいる。楽しい場所だが、初めて行く人にとってはマイナスなイメージがあるかもしれない。
- 両親が共働きの家庭の子どもが利用しているイメージがある。
- 地域に根ざした活動をしており、色々な人が子ども食堂の活動に参加しているという漠然としたイメージがある。
- 子ども食堂に何回か行ったことがある。同じくらいの収入の世帯の子どもたちが多く、学校よりも話が合う子が多かった。自分が子ども食堂に対して抱いているイメージは良いが、世間的にはマイナスイメージがありそうで残念だ。
- 「子ども食堂」という名前から「子どもしか使ってはいけない」というイメージがあったが、親も使うことができるのは嬉しいと思う。

○どんな人が「子ども食堂」を利用していると思いますか。

- 高校生や大学生というよりも、保育園・幼稚園・小学校低学年の子とその親等が来ていると思う。
- 1人で来るイメージがある。

- 自分の家庭は共働きで家に自分 1 人だった。こども食堂には友達もいるので「行こうかな」と思った。
- 学童は 17 時までが基本だと思う。そこから「お腹すいたからこども食堂に皆で行こう」というイメージ。
- 距離的な制約もあると思うが、小学生の場合は校区内、中学生の場合は自転車でいける範囲等対象を限定しているこども食堂もある。親と一緒にいる場合は車で来ることができる。
- 自分が行ったことがあるこども食堂は有機野菜を育てているグループが運営しており、そのメンバーのこどもやその友達が多かった。
- 自分が関わっているこども食堂では、1 回に 140 人来た時に人数制限をせざるを得なかった。その時は年齢によって時間帯を分けたりした。学童の 2 階でこども食堂をやっていたこともある。

○支援が必要なこども達が、こども食堂につながる（参加しやすくなる）ためには、どんなことが必要でしょうか。

- 支援が必要な人もいれば、そうでない人もいるという文脈で考えると、「支援が不要な人も来るようなオープンな場所」になれば良いのではないかと。「誰でも行けて楽しめる場所」という風に思ってもらえるのが良い。
- ふらっと来れる場所という意味では難しいかもしれないが、週 7 日開設してもらえると色々な人が来ることができると思う。
- こども食堂にはたくさんこどもが来るため、合唱等一緒にできることがあるといいのではないかと。歌であればコミュニケーションが得意ではない人も参加できるし、ストレス発散にもなる。対外的な発表の機会をつくることができれば、こども食堂のイメージも良くなる。
- 食堂の場所がすごく大事。学校帰りに立ち寄れる場所であれば、下校途中に寄る人が増えると思う。
- 飲食店が運営しているこども食堂もある。こどもが来た時は無料にしたり、食べ物を渡したりする等の取組をしている。いきなりこども食堂を実施するのは難しいが、このようなやり方だと地域の人も親近感が湧いて良い。
- 学童や児童館と連動させたら良い。また、医療機関の受診の話ともつながるが、こども向けの食事が無料になるチケット等を配るのも良いのではないかと。
- 「こども食堂ができた」という情報を得たときに、そのこども食堂が安全なのかどうかをこどもが判断することは難しい。自治体等に認証制度を設け、認証を受けている食堂について学校などから案内すれば安心して利用できるのではないかと。
- 学校給食の夕方版という感じだと、安心感があるかもしれない。
- こども食堂利用の申し込み用紙を学校で配ってもらっている。学校の家庭科室や教室等を借りて、食品衛生責任者の資格を持っているスタッフ等もスタッフに入れて食事を提供している。

以上

6班（大学生・大学院生世代2名、社会人世代2名）

テーマ：子育てや教育に関する経済的負担の軽減について

○0歳から2歳の保育料を0円にすることについて、どう思いますか。

- 働いている人は産前・産後に休暇を取る。育児休業はこどもが満1歳になる前日まで取れると法律で決まっている。産休・育休を取って職場に復帰をしようとすると、1歳の時点で保育園や家族にこどもを預けるしかない。また現在は労働人口も少なくなっており、職場では女性の活躍を推進している。私も、もしこどもが生まれたら、産休を取ったあとは職場に復帰してキャリアを築きたい。そのためにどこかにこどもを預けて自分の人生を歩みたいと思う。ゆえに保育料に関する支援があると私自身のためにも社会のためにも良いので、保育料は無償化される方がいい。
- 私も保育料の無償化には賛成である。しかし、現在の保育園では2歳以上のこどもを預けたくても預けられないという状況や、保育士が足りていないという状況がある。保育料の無償化によって、0～2歳のこどもを保育園に預ける人が増えると保育園はパンクしてしまう。安心してこどもを預けられる仕組みを作っていくとまらない。一方で、地方の保育園ではこどもがいなくて保育士が余っていると聞いた。保育料の無償化によって、地方の0～2歳のこどもが保育園に入ることになると、余っている保育士さんを助けることになるというプラスの面もある。都市部では保育園の人手不足の問題を解決しつつも、都市部と地方の保育園の差を考える必要がある。
- 個人としては、誰もお金を払いたいわけではないので、保育料が無償化される方がいい。ただ、具体的に保育料の無償化を実行できるかどうかが懸念点だと思う。大学も高校も学費の無償化が進んでいるが、どこまで無償化にするかは考えないといけない。保育所は教育施設ではなく保育施設でもあるので、無償化する対象の線引きをするとわかりやすいと思う。
- 私は保育園の無償化に反対寄りである。タダに越したことはないと思うが、保育所は教育施設ではなく、保育施設なので、こども家庭庁の管轄で教育とはお金の出所が違うと思うので話が変わるかもしれない。現在は、住民税非課税世帯の保育料が無料になっている。そもそも待機児童問題があり、保育所の利用需要がある中で、保育料を無償化したところで待機児童問題が解消するのかわかり不明である。保育施設に実際に払われている費用の負担を軽減した方がいいのではないかな。
- すべての保育料を無償化にする必要はなく、保育料を少し割引する程度がいいと思う。実際にすべての保育料を無償化に出来るわけではなく、無償化にできる対象者は少ないと思う。こども家庭庁のホームページを見て、「すべてのこどもに貴賤のない支援すべきだ」というメッセージを感じた。
- 改めて自分事として考えてみると、私は0歳のこどもを保育園に預けたくないと思う。私は幼稚園に通っていたこともあり、保育園に自分のこどもを預けることを想像ができない。全員に対する支援として保育園の無償化をする場合、私は保育園を利用しないと思うので支援の対象者にならないと思った。0～2歳の保育料を無償化にする代わりに、おむつ代のチケットを配る方が生活の足しになると、みんなの意見を聞いて思った。
- 私は両親が共働きだったので、保育園に預けられていた。100人くらいこどもがいる保育園だったが、私は土曜日も預けられており、土曜日は1人の先生が平日の準備をしながら、5人くらいのこどもを見ていてくれたのを覚えている。親が共働きでお金を稼いでくれたので、私は大学まで行けた。若

くして親になった人は収入も少ないので、こどもが幼い時期に補助がある方が、こどものために貯蓄ができるのでいいと思う。こどもが幼い時期に費用負担が軽減されると、家庭にとっては長期的にメリットがあると思う。

- 保育園の無償化について、正直身近な出来事ではなくニュースで見る出来事という認識である。大学生であれば大学の奨学金のことは耳に入るが、保育園の無償化について考える機会もない。こどもが小さいうちは親も若くて収入がないという意見には納得した。そう考えると大学無償化よりはこどもが幼い時期の支援の方が求められているのかもしれないと思った。
- 何にお金をかけるかは親の価値観にもよると思う。私の親は教育にお金をかけていた。その時にやりたいことをやらせるし、私にやらせたことは意地でも弟や妹にもやらせるという方針だった。私の親はどんな支援でも死ぬ気で探しに行く。私の家庭は母が働いていなかった所以我は幼稚園に通っていたが、「あなたの家は稼ぎがいいから支援の対象外だよ」と言われても、親は幼稚園に関する補助の申請を出すと思う。こどもの支援や大学無償化の支援に優劣はないと思う。
- 私は小学校受験に失敗した。私は3兄弟の長子だったので、母親も私が受験に失敗したことがショックだったらしい。周りからは「やりたいことをやってもいいんだよ」と言われることはあったが、自分自身は周りの期待に応えたいと思っていた。「兄には中学受験をさせたので弟・妹も受験していい」「兄には大学受験の浪人の選択肢があるから、弟・妹にも浪人の選択肢はある」「兄は剣道をやったから、弟・妹も何かスポーツとかやっていい」など、同じ選択肢を与えてくれた。そのために親はとにかく働いた。
- 様々な選択肢を持てることは素晴らしいことだと思う。みんなが様々な選択肢を持てるようにするために、保育料などの無償化というところに辿り着くと思う。最終的には「本当に無償化ができるのか」という壁に突き当たると思うので、無償化によってどこまで富の再分配をするかがポイントになると思う。

○ 0歳から2歳の保育料が0円であるならばこどもを産み育てることへの考えが変わりますか、それともこどもを育てるにはお金はかかるから産まないという考えもあるか。

- 子育てではお金がかかるからこどもを産まないという考えは少しある。私は大学を卒業したが、こどもにも私と同じような環境を与えられるとは思わない。こどもに十分な環境を整えるために、給料を高くするか、個人の負担額を少なくさせるという選択があると思う。国としては、負担を減らす方が進めやすいのだと思う。昔と比べると、現在の大学費用はそこまで高くないと思う。大学に行くという選択肢があるのはいいことだと思う。
- 私は、そろそろこどもがいたらうれしいなと思う年齢である。現実的なことを考えると、お金があればこどもが生まれるというわけではないと思う。こどもを持つには、相手がいてお互いに協力しないとこどもは生まれにくい、育たない。保育料が無償化されることでこどもが欲しいと思うわけでもない。なんでこどもが欲しいのかは分からない。周りにはこどもが欲しい人もいるが、なんでこどもを欲しいと思うのだろう。
- こどもが少ない時代に自分のこどもを産むと、こどもが可哀想だと思う。これから少子高齢化が進む中で、こどもにとっても負担をかけると思う。例えばこどもが負担する年金も増えると思うので、こどもの未来を考えるとこどもを産みたいと思わない。
- そもそもこどもを生みたい・育てたいという感情が生まれるのは、こどもが好きだから、こどもが欲しいとい

う個人の感情によるものなのか、それとも生まれてくる子どもが幸せでいられるという担保があって子どもを育てたいと思うのか、どちらが先だろうか。国家レベルだろうが家庭レベルだろうが、少しでも自分の周りの環境を豊かにしていくことが人間の営みなので、まず子どもは生まれるものだという価値観がある。将来的に貧しくなると分かっている、「生まれてくる子どもが可哀想だな」という考えに至るのがいまいち理解できない。

- 生まれる子どもには幸せになってもらいたいと誰しも思っている。国レベル、家庭レベルで自分の子どもの幸せを考えるかどうかは個人の考えによる。
- 子どもを生んで育てるにはお金がかかるが、費用だけにフォーカスせず、子どもを育てるということの社会的な意味も含めて少し広い目で見してほしい。あの家庭は子どもがいて偉いな、嬉しいなという、ポジティブな受け止め方ができるといいと思う。組織が永続するためには次の世代が必要である。「子どもを生むのは権利であり、それを行使しない」という考えには違和感がある。もう少し子どもを持つことをポジティブに捉えられるように、子どもを生むことで社会がどう発展していくかを学ぶ機会を教育課程に組み込むべきではないかと思う。

○学校に通うにあたって、お金が理由で進学等をあきらめた経験や、進路を変更した経験がありますか。

○あなた自身に限らず、周りでそのような経験をしている方を見聞きしたことがありますか。

- お金を理由に進学をあきらめたことはない。私は公立の高校に通っていた。大学に入り、奨学金をもらって学費が減免されているが、特に生活に困窮しているというほどではない。私の周りの方でお金を理由に進学が難しく生活が困窮している人がいると感じることはない。JASSO（日本学生支援機構）の奨学金は高校で全員に案内されるので、JASSOの奨学金を知らない人はいないと思う。
- 直近で言うと、家計の大黒柱が倒れて収入がゼロになったため、私は大学院の博士課程をあきらめて就活を始めた。母「修士課程に進みたかった」と話していたし、親戚は「大学に行かなかったが警官になった」と言っていた。大学から修士課程、博士課程まで目指したいと思えば思うほど、金銭的な問題という壁に突き当たるのだと思う。
- 私は、大学進学タイミングで私立大学には行かないと決めなければいけない状況にあった。私も弟も私立の中学校・高校に通っていたので、親にかなりの金銭的な負担を強いていたと気づいた。私は弟とは2歳しか年が離れていなかったため、大学進学時には国公立に行くことと決めた。そのためかなり選択肢が狭まった。兄弟で私立の学校で楽しんでいる人を見ると羨ましいと思う。
- 金銭的に大変な人は大学生活を送りながらお金を稼いで生活を維持している人もいる。その人は遊ぶ時間や遊び方も限られているので、親のお金で遊んでいる人がうらやましいと言っていた。
- 私は東海地方の高校から東京の私立大学に進学した。9歳上の姉と、7歳上の兄がいる。進学の実績を狭まれることなく、奨学金を借りずに学費も親に全部出してもらい、仕送りもしてもらったので本当にありがたかった。上のきょうだいは2歳しか年が離れておらず、姉は東京の国公立大学に進学したので、歳の近い兄は実家から通える大学に行くことになった。兄は進学時の選択肢が狭まっていたと思う。私は奨学金の存在を知らなかった。両親が学費を払えると思っていたからだと思う。両親は大学に進学していないので、大学に奨学金制度があるという発想がなかったのかもしれない。



今になって、奨学金を借りている人が多いと知った。

- 私の母親は都立高校を出たが、高校3年生の時に担任から「大学受験のための進学指導のことは何も分からない」と言い切られたのがショックだったと聞いたことがある。
- 高校によっては、進路指導の力の入れ方に差があると思った。
- 私は、JASSOの奨学金制度を利用している。給付される奨学金の区分は3区分しかなく、区分を決める支給額算定基準額は区分ごとに1円の差しかないのは厳しいと思う。ボーナスが上がると区分が変わり得る。奨学金の仕組みとして、区分の基準額に1円の差しかないのは仕方ないと思うが、判定のたびにひやひやする。
- JASSOの奨学金制度は、学生に対する信頼ではなく親の収入や資産で奨学金の区分を判断する。お金がなくなると今まで稼いだ額を基準に区分が決まってしまう。私の場合は、親に収入はなくても資産があったのでお金を貸してもらえなかった。父が退職金としてストックオプションを行使できる権利をもらっていた。現在稼ぎ口がないので、老後のために資産を持っておきたいのに、資産を切り崩して生活しないといけない。学生がお金を借りるので、学生の評価や成績で奨学金が出るかどうかを決めてほしい。奨学金を借りたいという気持ちは大きいですが、資産がある場合は一番高い利率で奨学金を借りることになるので、借りるだけ無駄になる。「払える資産があるなら払え」という価値観だけで奨学金を出すかどうかの判断をするのはどうかと思う。

○経済的に困難でも進学したいひとはどうすればいいか。

- 奨学金制度のことを知っていれば、大学に進学できると思う。東京の国公立でもそれなりに勉強したら大学には入れると思うし、私立の大学に進学する場合も奨学金制度を知ればいい。情報さえあればお金を理由に大学進学を諦めることはない。情報を知らないのは情報収集を怠っている結果だと思う。情報にリーチできない環境である場合は、別の問題だと思う。生活費のサポートをする奨学金もある。
- お金がないと余裕がなくなり、奨学金の情報までたどり着かないというケースはあると思う。やることが溜まり、他のことが見えなくなっていくと思う。欲しい人に欲しい情報を伝えるのは難しく、どうしたらいいのだろう。困っている人が自ら奨学金制度について調べることも、実際は難しいと思う。
- 高校の進路指導として、大学の奨学金に関する情報をカリキュラムに組み込むことを義務付けるといいと思う。これはお金に限った話ではない。私の妹は「お前は女なのに大学に行くのか」と周りに言われたことがある。また私が中学受験で願書を出す際に、条件として「中学・高校を卒業後は4年生制大学の進学を志望すること」と記載されていた。例えば、車が好きな人は自動車の整備士の専門学校に行くというキャリアコースがあるというように、大学進学の実選択も周知されてほしい。
- 親戚は地方で暮らしており、いここは高校卒業後にすぐ就職した。大学に行くという選択肢はなかったのだと思う。いここが高校2、3年生になると「いつ就職するの？」という話が出ており、周りの考え方や育った環境によっては大学進学の実選択がない状況はまだあると思う。いここがそれら外部要因によって夢を絶たれたかはわからないが、誰しもが夢を追いかけられる環境があってほしい。
- 私は大学を卒業しているが、こどもはどういう実選択を持てるだろうか。こどもの進路に与える親の影

響力は大きく、医者の子は医者になるという決められたルートもある。進路に疑問を持つ子は自分で相談したり調べたりするが、進路に疑問を持たない人はそれで一生を終えていくと思う。決められた進路を進むことが、当事者にとって不幸せかというそうでもない。社会がいくら選択肢を用意しても、選択できない人もいると思う。子どもが自分で情報を取れるような強い子だったら心配ないが、そうでない子どもはどうしたらいいのだろう。

- 選択肢は与えられるものだけでなく、自分で見つけるものでもあると思う。進路や進路のための情報について、誰がどこまでどのように手助けをしたらいいのだろう。
- 今は塾でアルバイトをしているが、生徒から「うちは公立の学校しか行けないと親に言われている」とよく聴く。若干選択肢が狭められていると思うが、子どもは選択肢が狭まっていると思っていない。実は進学に対する補助があることを知らない人も多く、選択肢を狭められている人たちが支援されるといい。同じ年収の家庭でも、子どもの人数や兄弟の年齢差などは金銭面で重要な要素になると思うので、実際の金銭的な事情に合った支援ができるといい。
- 「この人にはこの補助がある」と伝えられるはずはなく、一定程度は当事者が能動的に動かないと個人にあった奨学金情報にアプローチできない。

#### ○その他

- 最近、個人の将来がどうなるかというよりも、「日本経済はどうなるか」「世界情勢はどうなるか」という話が多い。もちろんそのような話も大事ではあるが、改めて個人はどう生きていくべきか、夢をどう実現していくかについて、国はもう少し目を向けてほしい。

#### いけんひろば後のアンケートでいただいた意見

- 子育ては充実してきているが、産むきっかけは弱いままだと思う。メディア対策をしないと子ども家庭庁の発信が信頼性が弱くなる一方だと思う。
- (自分の住んでいる町は)「旧軍港」という PR はしているけど、人口減少に歯止めがかからないことを言えていなかった。

以上